

令和2年度 平塚工科高等学校 第3回学校運営協議会議事録

日時：令和3年3月24日（水）

13時30分～15時00分

場所：本校 第1応接室

司会 教頭

記録 亀井、夏井（広報企画グループ）

1 開 会

2 会長あいさつ

【小島様】 宇山会長に代わっての挨拶。
本年度の振り返りを行い、次年度より良い学校運営をしてもらいたい。

3 校長あいさつ

【齋藤校長】 新型コロナウイルスの感染防止の観点から多くの学校行事を中止した。そんな状況の中でも、生徒に学びの体験をとの思いでできる限りの学校行事を行った。コロナ禍が収まるかどうかは不明瞭の中、この状況でも前向きに生きていくよう生徒たちには日々伝えている。在校生は参加できなかったものの、卒業式は無事に挙行できた。入学者選抜では、165名の入学が決定した。県内の他専門高校も定員割れをしていて、工業高校などは不人気の傾向である。なぜここまで割れているのかを新入生や諸中学校へ調査を行い、来年度は対策を練っていきたい。

4 学校運営協議会

(1) 第2回協議会後の教育活動報告と次年度に向けた課題

【学 事】 G-Suite を活用し、生徒が家庭でも課題を行えるよう設備を整えた。教員には、研修を通して登録等のやり方の指示を行った。活用については、生徒も慣れてきているがより多く且つ工夫された活用ができるようになることが課題である。そのためのマニュアルも作成予定である。

【進 路】 コロナ禍で生徒の進路先が心配されたが、結果としてほぼ連年と同等のものとなった。企業からの求人事態は減少したが、合格率には影響はなかった。大学進学についても例年通りの結果となった。他校では、入試制度の変更で大変な混乱があったようだが、本校では特にはなかった。来年度の3年生はインターンシップ等が行えていないため、今までとは異なるアプローチが必要になることが予想される。

【総 務】 例年は、PTA 活動を毎月1回行っていたが、今年度はコロナ関係のため年間3回であった。防災関係の事業については、避難活動と例年行っているもんもん保育園の園児の避難誘導は行うことが出来た。

【生徒支援】 コロナ禍による分散登校等で始まり、不安を抱えていた新入生が数多くいたように感じた。さらに耐震工事の関係で教室が職員室から離れ、目が届きにくい状況にもなってしまった。その中で、グループとして巡回等で生徒の様子をできる限り見るように心掛けた。また、自転車置き場や正門の使い

方の指導を行いながら、郊外巡視も行った。自転車の走行については近隣からの苦情が増えた。特別指導の件数は例年に比べて減少傾向にあった。

【教化外】部活動の加入率が例年に比べて大幅に上がった。特にバスケ、バレー、サッカーなどの各部活の部員数が増えた。文化部もより活性化された様子がうかがえた。1学年の担任団の働きかけと Classroom の活用が影響と思われる。Classroom についてはガイドラインを作り、来年度も継続していきたい。校内に部活動の掲示物を増やし、より活気のある学校を目指したい。その一環として新入生の入学者説明会の際、各部活による挨拶運動も実施した。文化祭でも活気ある姿を限定的ではあるが、保護者に見せることができた。食品販売だけでなく、体験型工作等の評判が特によかった。反省点として、社会福祉やボランティア活動ができなかったので来年度はそういった活動も再び行いたい。

【広報企画】神奈川工科大学の先生による3年生対象の出前授業を行った。授業を通して新たな興味関心を抱いた生徒もおり、成功に終わった。本校の職員が大野中学校にてLEDに関する出前授業を行うことができた。コロナ禍でも、9月・10月・12月には学校説明会を通して広報活動を行えたが、分散登校などの影響で年度初めは広報活動が少なかった。そのため、来年度は改善していきたい。

【総合技術】今年度はインターンシップを中止した。来年度はお願いしたい。資格取得については例年に比べて試験が実施できず参加数が減り、その結果、合格者数が減るかたちとなった。

(2) 協議

【石田様】大学側としてはオープンキャンパスなどを通して高校生へのアプローチができない状況である。そのため、高校生が大学を知る機会を提供することができない1年間であった。そのような中、平塚工科の一般入試の結果はどのようなものだったのか。

【進路】一般入試は3名の生徒だった。その内の1名は鎌倉女子大学に合格をした。当生徒は学習に対するモチベーションが高く、非常に努力した。残りの2名もあきらめず最後まで頑張るよう指導し、努力した。入学共通テストには2人挑戦はしたものの、結果は厳しいものとなった。

【石井様】受験者数が減少し定員割れをしたのは不況やコロナの影響なのか。また、文系に近い工業系を希望している層が増えているように感じるが、平塚工科の系統割はどうなのか。

【校長】例年、ほぼ一定数の希望者がいたのに今年度は急激に減った理由が定かではないのが現状である。中学校側にも話を聞いたが解答は得なかった。コロナ禍や不況の影響で本校志望者数が上がると予想していたが、私立の授業料免除等が多少なりとも影響していると考えられる。また、広域通信制の高校が増えているのも一因であると考えている。そういった高校に受験生が流れるほど定員割れが起きる。工業高校に限らず、普通高校も定員割れが目立つのも今年度の入試の特徴であった。特に神奈川県西部にある高校の定員割れが多かったのは、県内の生徒が都心の学校を希望している傾向があるのではないかと分析している。カリキュラムとしてはテコ入れをして改善中である。1年次は総合技術学科としているが、より工夫を施していく必要がある。

【総務】将来就きたい職業ランキングの1位がサラリーマンという結果となった。テレワークや通勤をせずに働いている自分の親の姿を見ての影響がランキングに反映されているのではないか。そのような中、本校卒業生の多くは工場勤務であり、テレワークとは親しみがないため、入学者減に関係があるのかもしれない。他校種の農業高校・商業高校などは人気がある。

- 【坂本様】 横浜市内でも東京方面の学校・職場へと人が流れている傾向がある。
- 【校長】 神奈川県西部は生徒数も少ない。地元の高校に進学すればよいが、都心方面に行かれてしまうと結果として定員が割れてしまう。
- 【石井様】 世田谷区では7割の生徒が私立に通っている。そうすると公立のレベルが下がることが懸念される。その結果、将来の教員志望も減少し、学校の質そのものが下がることが心配される。
- 【小島様】 オンラインを利用した学び直しとはどのようなものか。
- 【校長】 今年度は学習ソフト Classi を利用し、動画配信を通しての学び直しを行っている。来年度の1年生はリクルートのスタディサプリを活用して小学校レベルからの学び直しが可能となる。定期的にテストを行い、その結果から生徒の苦手分野を抽出し、集中的に学ばせていきたい。将来的には、生徒が自学自習に率先して取り組むことが目標である。
- 【小島様】 義務教育段階でも似たようなものがあり、やる気がある生徒やフォローが必要な生徒にはとても有効である。
- 【進路】 入試制度が今年度変更され、高校の現場は混乱状態であった。コロナの影響で始まったオンライン面接等の試験は今後も続くと考えられるだろうか。
- 【石田様】 総合型選抜試験（旧 A0 入試）の志願者は大幅に減少し、逆に指定校推薦希望者が大幅増の結果となった。入学手続きの状況が芳しくないという傾向もある。来年度以降をどうするかは現状、判断が難しい。その利用としてオンライン面接は受験生に負担を強いる。そのフォローや対応が課題である。また、総合型選抜試験は本来、体験や実習を通して選考するものなのでそもそもオンラインでの実施が難しい。さらに、例年はオープンキャンパスの中で高校生に体験や実習をしてもらっているが、今年度は定員制・予約制で行っているため、希望する生徒全員が受けられたわけではなかった。
- 【石井様】 リモートでの就職活動が増えている中、今まで以上に書類の重要性が高まっている。さらに例年にない傾向として学生側が企業側の SDGs への取り組み等の質問をしてくる。学生は企業名以外を見て、エントリーを考えるようになった。また、就職活動において企業側でも基本はオンライン面接、内定が決定したら直接面接といったハイブリッド方式を採用しているところが多い。
- 【石田様】 大学の授業がオンラインなので採用試験がリモートでも学生はよく対応している。高校生の場合はどこまで自宅でできるのか。
- 【進路】 Wi-Fi やパソコンを家庭環境で揃えることができない生徒が一定数いる。それに伴い、学校内でオンライン面接等を行うには課題がたくさんある。例えば、試験中は教員がその部屋に入れない、回線が切れる等のトラブルの対処法を生徒がわからないといったものである。また、今年度のトラブルとしては募集要項の内容変更などでも二転三転して振り回された。学校内で行うことは不可能ではないが、トラブルが起きた時の責任等が取れない問題がある。
- 【校長】 大学側は土日試験を実施するところが多く、学校対応の場合、職員の働き方にも課題がある。
- 【井上様】 採用の際にリモートは行わない。働く人に現場を見てもらい、肌で感じ、こちら側としては顔を直接見て、お互いに判断したい。

5 学校評価部会

(1) 校内評価報告（各総括教諭）

- 【資料3】 資格の取得・・・ 検定数の減少と行った場合も例年と異なり人数制限等があったため、結果、合格者数が例年より少なくなりました。
- 【資料4】 欠席遅刻等・・・ コロナの影響で出席停止措置等が例年より多い結果となった。出席停止の中には大事を取って休む、といったものも含まれる。年間を通して授業数が少なかったが、1年生は遅刻が少ない結果となった。
- 【資料5】 進路状況・・・ 卒業後の進路が確定していない生徒が二名いる。あとは先述通り
- 【資料5】 不祥事ゼロプログラム・・・ 4月から在宅勤務や時差出勤を認め、企業と同様に職員の出勤を減らすよう取り組みを行った。そのため、年度当初は職員が顔を揃えるのが難しく、プログラムを実施することができなかった。年度後半からは状況が改善され、活動を行なった。特に力を入れたのがコミュニケーションツールを積極的に利用するという点である。マイクロソフトの Teams を使い、チャットや会議で利用した。さらに、クラウドを利用して情報管理をするよう指示を行った。セキュリティ強化等、事故防止につながる活動は来年度以降も引き続き課題である。すでに行っている対策としては、オンライン上でも生徒と教員が密室にならないよう、第三者が閲覧可能な状態にして事故を未然に防止できるよう努めている。

(2) 学校関係者評価（各委員）

- 【石田様】 大学側としては本校で行う出前授業等の要請は来年度以降も継続してほしいと考えている。部活動の加入率が増加していることは良い傾向なので、今後も拡大・発展していくことを期待している。また、地域社会との交流という点で、小・中学校の生徒が本校の実習などを体験できる機会を提供する場を設けることを次年度は期待したい。
- 【石井様】 定員割れが大きかったので、次年度は入学者を増やすため PR 活動に力を入れてもらいたい。その中で、学校の魅力を強く発信していくことを期待している。
- 【坂本様】 文化祭を一般公開は難しくても、中学生への公開をしていくことが望ましい。近隣の苦情があるため、自転車の通学指導を引き続き行ってほしい。
- 【小島様】 G-Suite の活用を個人単位ではなく、組織的に行っていくことを期待したい。心理的な不安を抱えている生徒も多い現状、ケース会議などを通して個別かつ丁寧な対応をしてほしい。オンラインを利用した自学自習の発展も期待している。さらに、コロナ対策をしながらどのような地域イベントができるかを考えていくことも課題である。コロナ以前に戻すことを目標とするのではなく、新たな形へと発展させていく。情報機器の活用は便利な反面、事故防止の観点を忘れずに行ってほしい。
- 【関様】 『平塚工科高校＝就職が強い』というイメージが周囲にはあるが、保護者の観点としてはコロナで社

会全体が就職難の認識があるため不安がある。さらに、公私の学費差も埋まりつつあり、設備が整っていて安定している私立高校を選ぶ家庭が増えている。また、『実習服＝男子校』というイメージもあるため、そのあたりを改善して女子生徒の入学者数を増やしていく必要性もある。そのために、より多くの人に体験を通して、平塚工科について知ってもらう機会も提供をしていくことが望ましい。

6 意見交換

7 閉会

【配付資料】

資料1 第2回学校運営協議会議事録

資料2 学校評価報告書 実施結果

資料3 校内評価報告書 補足説明資料

(1) 資格検定等の結果

資料4 同(2) 欠席・遅刻・早退件数

資料5 同(3) 卒業生進路状況・進路先一覧

資料6 同(4) 不祥事ゼロプログラム検証結果

資料7 第4号様式(辞職(辞任)願)

○出席者

- ・小島 昇 平塚市立なでしこ小学校校長
- ・石田 裕昭 神奈川工科大学経営管理本部 企画入学課担当部長
- ・坂本 雅晴 特定非営利活動法人 ヨコハマみらい環境協議会理事
- ・石井 政夫 株式会社 I M C 代表取締役
- ・井上 弘司 横浜コム株式会社平塚製造所 平塚総務グループ 課長補佐
- ・関 みどり 本校 P T A 会長
- ・齋藤 和宏 校長
- ・田代 武 副校長
- ・蓑島 信成 教頭
- ・深代 照子 事務長
- ・藤井 智之 学事グループリーダー
- ・鈴木 浩司 広報企画グループリーダー
- ・高木 一郎 進路指導グループリーダー
- ・秋澤 和利 総務グループリーダー
- ・田中 聡 教科外グループリーダー
- ・小川 忍 生徒支援グループリーダー
- ・亀井 裕章 書記
- ・夏井 公大 書記

問合せ先

教 頭 蓑島

電 話 (0463) 31-0417 (代表)

F A X (0463) 32-6983